

さいたま市立大宮北中学校

学校だより 5月号

令和6年5月2日(木)



048(641)1214

048(641)6680(さわやか相談室)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

『人間性豊かな 実践力のある生徒』

- ◆たしかな学力
- ◆ゆたかな心情
- ◆たくましい身体

自分一人ぐらいは・・・

校長 小林 正美

新年度がスタートして早いものでもう1ヶ月が過ぎました。桜の花びらも散り、草木の若葉が一段と鮮やかな季節になりました。保護者の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。4月20日(土)の授業参観及び学級懇談会には、多数の保護者の皆様にご参会いただきありがとうございました。様々な行事等が矢継ぎ早に行われたあわただしい4月でしたが、生徒たちは新しいクラスにも馴染み、落ち着いて活動に取り組んでいます。

さて、「ぶどう酒が水になった話」というお話がフランスにあります。それは、フランスのぶどう酒づくりが盛んな小さな村の小学校に勤めていた教師の話です。この教師は若い頃から村の小学校で教師をしていましたが、いよいよ年をとって故郷に帰ることになりました。村人たちは、長い間お世話になった先生に感謝の気持ちを込めてぶどう酒を贈ろうということになりました。みんなが自家製のぶどう酒をコップに一杯ずつ持ち寄って、村の広場においた樽の中に入れることになりました。やがて樽はぶどう酒でいっぱいになり、村人は封印して先生に贈りました。この教師は長く勤めた満足感と村人の気持ちに感激し、大切にその樽を故郷に持ち帰りました。そしてその樽のぶどう酒を飲んだところ、なんとそれは水の味しかなかったのだそうです。「自分一人ぐらいは・・・」と考えたことが、美味しいはずのお酒を水っぽいのにしてしまった。いや、水っぽいだけならまだよろしい、多少なりとも酒の味は残りますから。恐ろしいのは、みんなが「自分一人ぐらいは」と考えたことで本来お酒であるはずのものが、水になってしまったことにあります。一人の自覚不足が集団の質を低下させ、中身を薄いものにしてしまうだけでなく、中身を全く違うものに変えてしまうことに繋がってきます。そして、「自分一人ぐらいは・・・」という考えは、姿形が見えませんが、それは、本人のみぞ知る心の世界ですから、まさに当人の自覚に待つほかありません。こんないい加減な人ばかりの村は将来の発展も望めないでしょう。一人ひとりの心掛けや行動がいかに大切であるかを教えてくれるフランスの逸話です。

私たちは、よく自分の成績や業績の良し悪しを気にしたり、顔や頭髪、服装や格好の美醜を気にしたりしますが、自分の「心の姿勢」については、意外に気に掛けていない場合が多いような気がします。授業開始のチャイムに遅れて着席したりする人たちがいれば、その数人のために学級全体の始業時のけじめがつきません。また、みんなで協力して行う清掃活動で、さぼる人が一人でもいれば、他の人はその分余計に時間がかかったり、十分な清掃ができなかったりということになります。一人ひとりの「心の姿勢」のもちかたで、全体の雰囲気はまったく違ってしまいます。

いよいよ今月は、2・3年生は中間テスト、そして全校で取り組む体育祭があります。また、6月1日(土)からは、さいたま市中学校総合体育大会が始まります。3年生にとっては最後の大会です。試合の勝ち負けだけにこだわるのではなく、それ以上に、生徒の皆さんには、「あきらめない強い心」を学んで欲しいと思います。試合は、自分との戦いです。自分が、最後まであきらめない気持ちを持続できるかどうかです。一人ひとりの「心の姿勢」が集団の質の向上につながることをしっかり自覚し、最後まで全力を尽くして欲しいと思います。